

ガバナンスだってシステムであり運用だっ
～ 運用現場にも影響する資源管理の行方～

JANOG15パネルディスカッション

パネルに至った背景

- インターネットは広く一般の市民にも使われる社会資本とみなされるようになってきた。
- JPNIC: IPアドレス管理を初めインターネットが動き続けるために、事業者やベンダーが単独ではできない、しかし必要不可欠だと思われる活動を行っている。
- 一方2004年はインターネットガバナンス議論がヒートアップ。ただし、インターネットコミュニティ(ベンダー, 事業者, 研究者など)の外で活発だったことである。
- 社会資本化にあたってそのガバナンスへの多方面からの参画はむしろ当然と言え、インターネットのガバナンスは大きな転換点に差し掛かっている。

そこで今日は、

- JPNICの現在の活動状況、及びインターネットガバナンスに関して2004年の議論と、どのような転換点に差し掛かっているかを概観
- これらを現在インターネットが抱えている問題を検討
- 今後のインターネットガバナンスの向かっていくべき方向性やその中での運用技術者や開発技術者、あるいはJPNICの果たすべき役割を、パネリスト、参加者とともに議論したい。

パネリスト

- 佐藤 晋さん
 - JPNIC IP事業部
- 前村 昌紀
 - JPNIC IPアドレス担当理事
 - フランステレコム日本研究所
- 吉村 伸さん
 - メディアエクスチェンジ株式会社